CASBEE®熊本《新築》【 性能表示 】

■ 建物概要

建物名称	(仮称)ダイワロイネットホテル熊本崇	階数	地上11F
建設地	熊本県熊本市中央区花畑町10番2	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	350 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	学校,飲食店,ホテル,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月　予定	評価の実施日	2019年11月6日
敷地面積	840 ㎡	作成者	生田　聖章
建築面積	626 ㎡	確認日	2019年11月7日
延床面積	5,370 ㎡	確認者	古川　照

■ 外観

ナしてください。

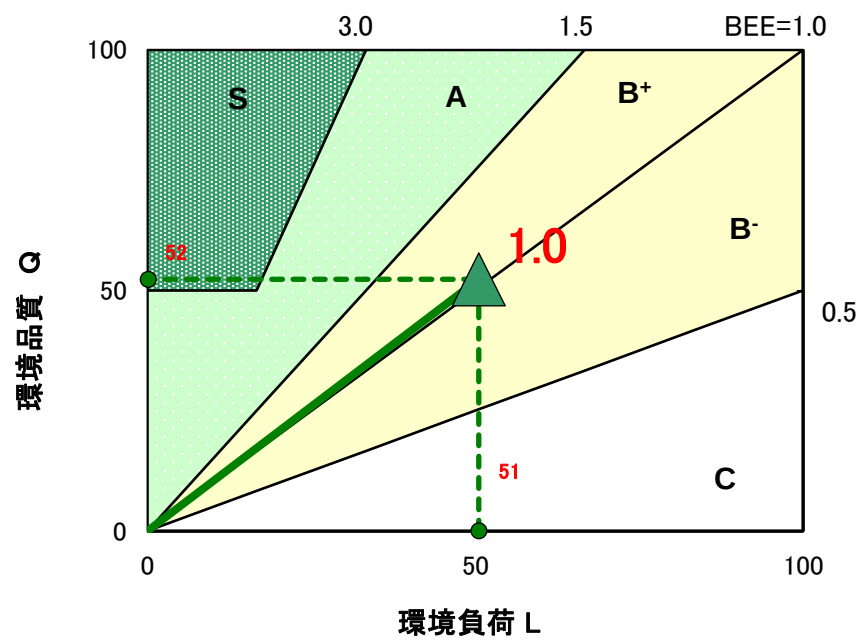
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★☆☆

BEE = 1.0

■BEE(環境効率) = Q(環境品質) / L(環境負荷)



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	―
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	―
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	―
C	★	劣る	0.5未満	―

■ライフサイクルCO_2 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO_2排出性能(ランク表示)

☆☆

排出率
86%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点
66

	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	67.8
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	61.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	65.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	67.5

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

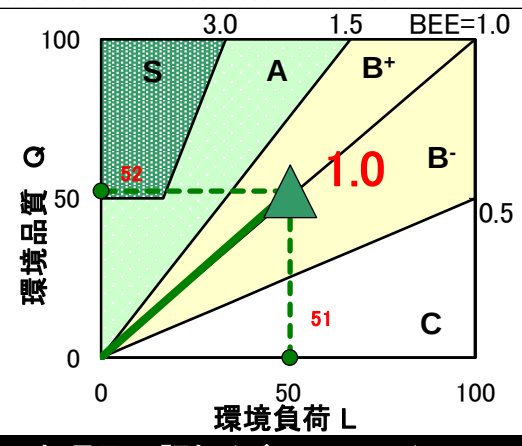
建物名称	(仮称)ダイワロイネットホテル熊本	階数	地上11F
建設地	熊本県熊本市中央区花畑町10番2	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	350 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	学校,飲食店,ホテル,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月　予定	評価の実施日	2019年11月6日
敷地面積	840 ㎡	作成者	生田　聖章
建築面積	626 ㎡	確認日	2019年11月7日
延床面積	5,370 ㎡	確認者	古川　照

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.0 ★★★☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★

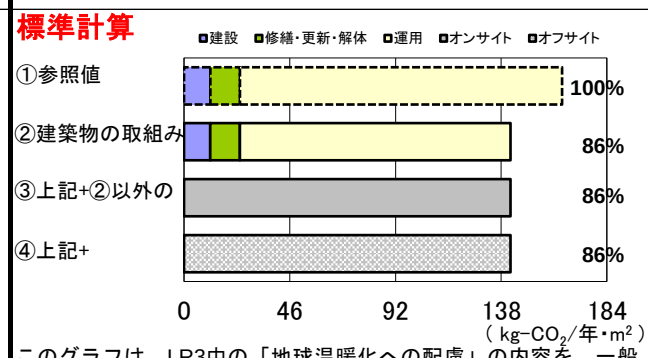


2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

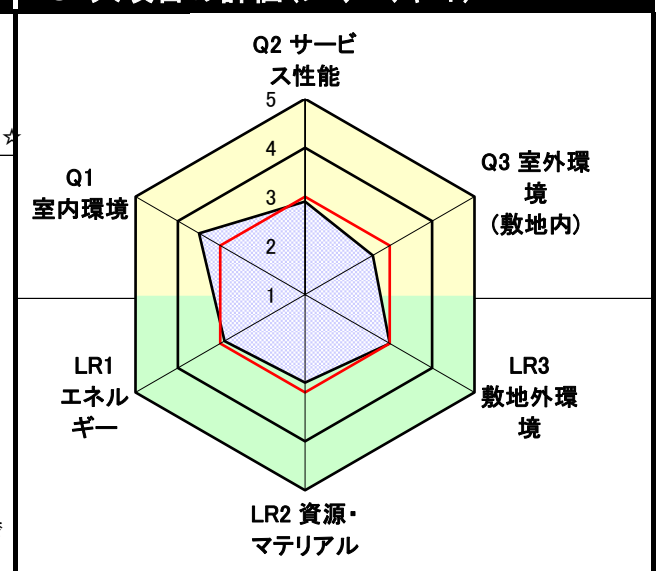
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

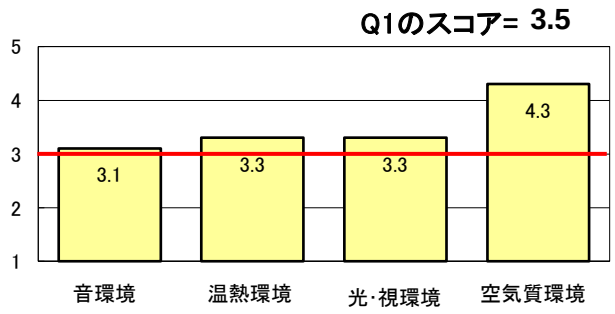
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



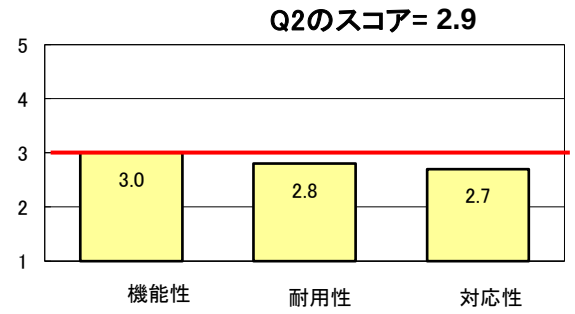
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.0

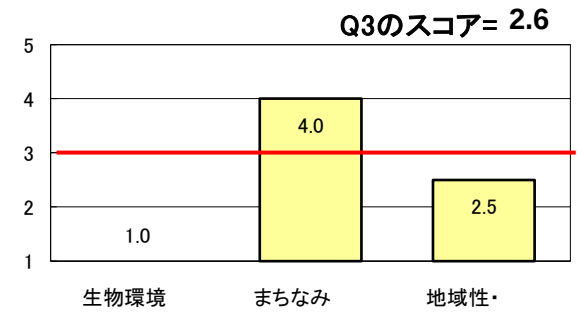
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.5



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.9

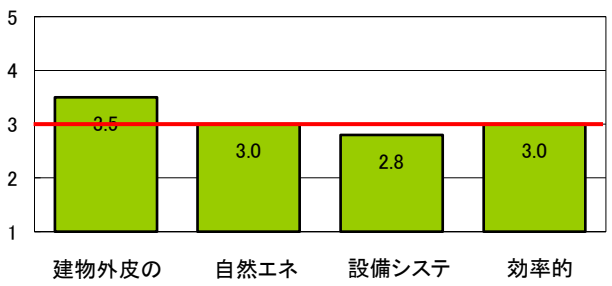


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.6

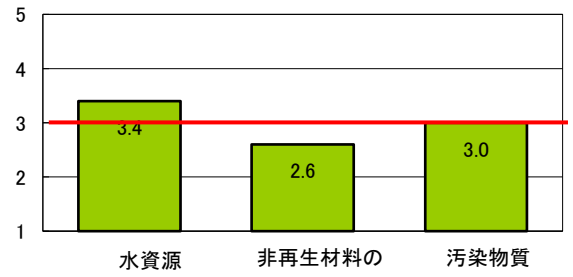


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 2.9

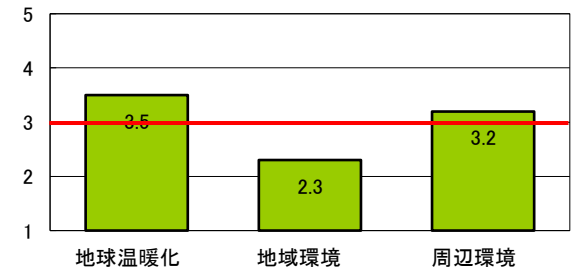
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 2.9



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 2.8



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.0



3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 66

重点事項1:温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 67.8

重点事項2:安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 = 61.2

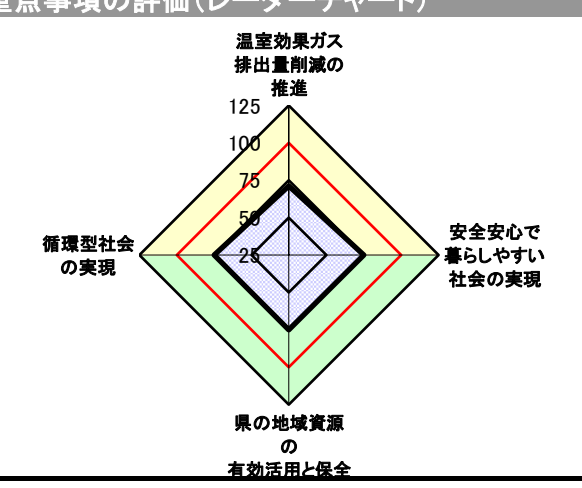
重点事項3:県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 65.0

重点事項4:循環型社会の実現

評価点 = 67.5

重点事項の評価(レーダーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)ダイワロイネットホテル熊本崇城大学新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						3.0
Q1 室内環境			0.40		-	3.5
1 音環境		3.0	0.15	3.2	1.00	3.1
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音		3.0	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能	客室内部建具はT2以上	3.0	0.94	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.04	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.01	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.01	3.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境		3.0	0.35	3.5	1.00	3.3
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	0.71	
1 室温		3.0	0.39	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.35	-	-	
2.2 湿度制御	湿度45%～55%の調整可能な設備を採用	3.0	0.20	5.0	0.29	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.3	0.25	3.3	1.00	3.3
3.1 昼光利用		4.1	0.32	4.2	0.30	
1 昼光率	昼光率＝2.8以上	5.0	0.58	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.42	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		3.0	0.29	3.0	0.30	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.14	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.24	3.0	0.25	
4 空気質環境		4.3	0.25	4.2	1.00	4.3
4.1 発生源対策		5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質	規制対象外を使用	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気		3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量		3.0	0.49	3.0	0.33	
2 自然換気性能	換気開口率＝8.2%	5.0	0.02	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.49	3.0	0.33	
4.3 運用管理		4.8	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	0.05	-	-	
2 喫煙の制御	喫煙室設置	5.0	0.95	-	-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	2.9
1 機能性		3.4	0.40	2.8	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	2.0	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	0.01	1.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.01	3.0	0.50	
3 バリアフリー計画		3.0	0.98	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.9	0.30	4.0	0.40	
1 広さ感・景観	客室天井高2.5m	3.0	0.05	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	内装計画の取り組み3項目	4.0	0.95	4.0	0.50	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	取り組み8項目	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		2.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.0	0.30	2.6	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり		4.2	0.03	2.2	0.50	
1 階高のゆとり	1階2階の階高4.2m以上	5.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率＝0.27	3.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.03	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.0	0.93	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	取り組み4項目	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	2.9
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPIm＝0.93	3.5	0.20	-	-	3.5
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.84	2.8	0.50	-	-	2.8
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水便器、擬音装置採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	ー	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ー	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	断熱材吹付け硬質ウレタン使用	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	換算スコア＝3.5	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮		2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン」を過半を満たしている。	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE®熊本《新築》【 配慮事項 】

4 設計上の配慮事項

総合

立地を活かして、地域のランドマークとなるような形状としながらも、町並みの景観を考慮し周囲に調和した建物を目指した。

Q1 室内環境

ホテルの客室内は複層ガラスとし、熱負荷を抑え、内装材に化学汚染物質を使用せず、室内環境の向上を図った。また開口部、界壁の遮音性能を高めることで、居住環境にも配慮した。

Q2 サービス性能

バリアフリーな建物とした。
また、外部に露出する鉄骨部には溶融亜鉛メッキとし、防錆対策を行った

Q3 室外環境（敷地内）

道路境界部は高低差のない開放的な空間とし、隣地境界部を閉鎖することで部外者の進入を防止。パブリック空間とプライベート空間の分離を図ることにより、防犯性・防災性にも配慮している。

LR1 エネルギー

建物外皮の熱負荷抑制、設備システムの高効率化により省エネ性能を上げた。

LR2 資源・マテリアル

省水型機器を設置することで、節水への取り組みを行った。

LR3 敷地外環境

省エネによるライフサイクルCO_2排出率の低減。
屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称	*(仮称)ダイワロイネットホテル熊本崇城大学新築工事*

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)　　■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	66
重点事項				評価点	重点事項重み係数	評価配点
重点項目（配慮項目）		スコア	重み係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				67.8	0.40	27.12
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.5	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	1.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.2	0.20	12.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				65	0.20	13.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点　＝　（各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数）の総和

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項（①～④の項目）

評価点　＝　（各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数）の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20 ： スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数